理事長から皆様へご挨拶

社会福祉法人　新川会

理事長

牧野　武

大学卒業してから福祉一筋！！

私は、１９６７年（昭和 42 年）、開設して間もない民間の精神薄弱者（知的障害者）更生施設に就職しました。

当時は「福祉施設」、特に、民間の福祉施設で働くことは「奉仕」というイメージが強く、そのような環境の中で、儲け仕事ではないから給与水準など低くて当然、処遇面でいうと民間企業よりも当然悪く、福祉施設で仕事をするということは周りの友人から見れば、少々変わり者に映っていたと思います。（笑い・・・）

苦労を乗り越えたからこそ気づいたこと

仕事をし始めたころは、人手も十分でなく、２年ほど利用者と起居（住み込み）ともにしたり、辛く感じることもありましたが、障がい者の福祉を拓くというこころざしを持って入った世界であり、彼らと苦楽をともにする中で、そのやりがいを感じることができました。

社会福祉法人新川会は、平成３年に、滑川市、立山町、上市町、舟橋村の「手をつなぐ親の会」が中心となって立ち上げられ、将来、この地に成人施設を中核とする障がい者とその家族を支援する福祉エリアの構築を目指しました。

このとき、初代高木久之理事長から、構想に基づく計画案の策定に参画させていただく機会をいただきました。翌１９９２年（平成４年）に開設したのが四ツ葉園です。四ツ葉園という施設名は四つの市町村の『親の会』の願いを象徴しています。

中新川地区の自然豊かなロケーションを活かして地域とともに生きる

２００１年（平成 13 年）、35 年間勤務した法人を退職し、施設長として着任しました。

平成 15 年、戦後、長く続いてきた措置費制度から契約に基づく支援費制度への大転換が行われ、「障がい者が地域の中で自分らしく暮らすこと」を支援するという、新しい障がい者福祉の理念が掲げられました。

国際障害者年から２０年余りを経て、障がい者に対する〝心のバリア〟の解消はまだ残されたままでした。
障がいのある人たちにたいする人々の理解を広めるにはどうしたらいいか考えていたとき、地元、上市町社会福祉協議会から、小・中学生ボランティア教室の企画への要望を求められ、〝うちの利用者と一緒に歩いてください〟とお願いしたところ、すぐに意をくんでいただき、「ふれあいウォーキング」が企画されました。
それは、立山寺から運動公園までの約２キロを小・中学生と障がい者が一緒に歩くというものです。小・中学生に高校生や学生も加わったボランティアと障がい者が、いくつもの班に分かれ次々にお寺をスタートし、途中、手をつないで助けあい励まし合い、クイズを考えたりしてウォーキングをします。途中、交通安全協会の方たちが見守り、運動公園では社会福祉団体、各種団体が、バーベキューやソーメンで迎え、ゲームや合唱でふれあいます。
参加した小・中学生は、後日作文を提出します。「最初は怖かった」、「障がいがあるのにがんばっている」と感動してくれました。そこには、初めての出会いによるとまどいはあっても、「偏見」や「差別」は感じられません。「次に出会ったときはもっと話ができるようにしたい」という素直な感想には深い感動を覚えました。
初回は、新川会の利用者が対象でしたが、翌年には、上市町内の３障がいの事業所も加わり今年（令和元年）、１４回を数えました。

福祉の地域の活性化に尽力

これからも、福祉フェスティバル等の福祉イベントへの参加だけでなく、町おこしのイベントにも利用者の製品販売等に参加する等、〝福祉で町おこし〟に参加の機会を広げていきたいと思います。
障がい者福祉の社会啓発を考えるとき、周囲から与えられるだけでなく、この歳になって、障がい者が進んで参加する社会貢献についても、考えてみたいと思っています。

新川会には、障害者支援施設（入所施設）と通所の多機能型事業所４、グループホーム４棟を経営し、現在２３０名あまりの方に利用していただいています。

朝になったら目覚め、服を着替え、職場へ出かけ、働いたり、仲間とつきあい、家に帰り、家族とすごす。これが暮らしのリズムです。このあたりまえの暮らしを続けることが、新川会の各事業所の基本的な役割で、これには通所も入所（職・住分離）も同じです。
そして、一人ひとりの能力や興味に即した、生産活動への参加の場を拡げ、多様な価値を生み出し、個性豊かに、生きがいを感じて暮らしたいものです。

今後はどんな施設に

私たちの業界も、その事業・活動の内容や提供するサービスの質を競う時代になってきていると感じています。共に生きる社会の実現に向けて、国の施策にどう適合し、さらに地域のニーズにどう応えていくか、職員一人ひとりが取り組んでいかなければなりません。

最近、AI や ICT という言葉をよく聞きますが、もちろんそういったものを活用していければ、仕事の効率化はもっと図れるかもしれません。しかし、この仕事は人が人に接する仕事だということ考えると、私は容易に AI に置き換えれるものではないと思っています。

新川会のキャッチフレーズは〝明るい笑顔あふれるところ〟です。
新川会では、利用者との関わりについて、これまでの一人ひとりの育ちについて思いを寄せ、ありのままをうけとめることから関係を持ち、相互に学び合いながら共感しあい良好な信頼関係の下に、社会的自立を目指すことを基本方針としています。

求める人財

皆さん、情熱をもってこの業界に飛び込んでくると思いますが、その想いを貫くことができる人であってほしいです。また、自分がこの仕事を通じて、素直に学び、夢を持ち、生きがいを感じていることを、フィードバックできる人間であってほしいと思います。
自分たちの関わりひとつで、利用者の方々の人生そのものが大きく開かれる職場だからこそ、すごく大変だけどやりがいのある仕事だと思っています。

地域に根差して福祉に関わる仕事がしたい皆様のご入職を、ぜひお待ちしております。

趣味

クラシックからロックまで音楽が好き。障がい児・者にとって音楽や歌は共通言語！毎日が歌声あふれる施設をつくりたい。

尊敬する人

信楽学園　園長　池田　太郎　氏
　糸賀　一雄 氏　等とともに近江学園の創立に携わる。
　著書　「精神薄弱児・者の教育」他
　※２４歳の時、信楽学園で実習し感銘を受ける。